

主体的・対話的で深い学びの実現に向けた題材構想〈中・家庭〉

特別研修員 家庭 蓼沼 佐弥香（中学校教諭）

題材名 『私たちの消費生活』（第1学年） 全9時間計画

題材のねらい

生活に必要な商品の適切な購入について考える活動を通して、よりよい消費生活を送るための基本的な知識及び技能を身に付けさせるとともに、目的に合った商品の計画的な購入について工夫し、自立した消費生活を送ろうとする実践的な態度を育成する。

題材構想の意図

本題材では、生活に必要な商品の適切な購入について考える活動を通して、消費生活に関する知識及び技能を身に付けさせ、身近な消費生活について工夫し創造しようとする実践的な態度の育成を目指します。つかむ過程では、生活の中から自分たちの問題を見いだして学習課題を立てる活動を行い、主体的な学びにつなげます。追究する過程では、対話的な学びを促すために、互いの意見や気付きを共有し、よりよい解決方法について検討し合う活動を充実させ、知識及び技能の習得につなげます。まとめる過程では、題材を通して身に付けた知識及び技能について振り返らせ、これからの消費生活でどのように生かすか具体的に考えさせて、新たな課題に気付けるようにし、学びが深まるように構成しました。

過程	主な学習活動	学ぶ必要感をもたせる
つかむ (2)	<p>1. 題材を貫く課題を立てる</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分や家族の消費生活の問題について考え、自分たちが見いだした問題を基に、題材を貫く課題を立てる。 ○課題を解決するために必要な知識及び技能は何かを検討し、学習計画を立てる。 <p>自分ができることを積極的に実践する消費者になろう。</p>	<p>自分や家族のこれまでの消費生活を振り返らせることで、消費生活の学習を始める以前の自分が「できない・知らない」ことについて意識を向けさせ、これからの学習への興味を引き出す。</p> <p>解決すべき課題を明確にさせる</p> <p>日常生活から問題を見いださせ、自分たちが目指す「できることを積極的に実践する消費者」を具体化して「題材を貫く課題」を設定させる。</p>
追究する (6)	<p>2. 商品の適切な購入、目的に合った商品の選択、消費者トラブル、消費者の権利と責任に関する知識及び技能を身に付ける</p> <ul style="list-style-type: none"> ○身近にある商品の購入について、様々な販売方法や支払い方法の利点や欠点などについて、グループで話し合う。 ○情報収集や選択基準について話し合い、目的に合った商品を適切に選択する方法を工夫して考える。 ○消費者トラブルについて、販売者、消費者それぞれの立場からの問題点やトラブルを解決するための方法について話し合う。 ○事例を基に、自分にもできる「責任ある消費行動」について具体的な対策を考える。  <p>3. 課題解決に向けた購入シミュレーション学習を行う</p> <ul style="list-style-type: none"> ○習得した知識及び技能を活用して、家族で使用する商品についての「購入シミュレーション計画」を立てる。 ○互いにアドバイスし合ったり、「持続可能な社会の構築」の視点から見直したりして、よりよい購入計画にする。 	<p>課題解決の見通しをもたせる</p> <p>学習課題を解決するために、どのようなことを学習すればよいかを検討させ、題材を通した学習計画を自分たちで立てさせることで、主体的な学びにつなげる。</p> <p>課題解決に必要な知識及び技能を身に付けさせる</p> <p>実感を伴って理解することができるように、実践的・体験的な活動を設定する。インターネットを介した通信販売や、クレジットカードによる三者間契約など、多様化した購入方法や支払い方法の特徴についても理解させる。</p> <p>習得した知識及び技能を活用させる</p> <p>学習で得た知識及び技能を活用させるために、消費生活を改善するための実践について考えさせ、商品の購入計画を具体的に検討させる。</p> <p>よりよい解決方法を考えさせる</p> <p>よりよい消費生活を送るための実践となっているかについて着目することができるように、互いの実践についてアドバイスし合い、購入計画を再検討させる。</p> <p>改善策や新たな課題に気付かせる</p> <p>購入シミュレーション学習を振り返らせ、改善できること、更に知りたいことなどについて気付くことができるように、既習のワークシート等を活用させながら自己評価をしたり意見交換をしたりする場面を充実させる。</p>
まとめる (1)	<p>4. 身に付けた知識及び技能を実感し、題材の学びを振り返る</p> <ul style="list-style-type: none"> ○これまでの学習を振り返り、題材を貫く課題が解決できたかについて意見交換をする。 ○学習で身に付けた知識及び技能を活用して、これから自分がどのような消費生活を送っていきたいか具体的に考える。 	<p>学びや変容を自覚させ、実践的な態度を養う</p> <p>消費生活の学習を始める以前の自分が「できない・知らない」と感じていたことについて振り返らせ、学習後の自分が何を学ぶことができたのか気付かせる。また、学習で身に付けた力をどう生かすか具体的に考えさせる。</p>

指導のポイント

指導例：『私たちの消費生活』（第1学年 第1時）

1 本時のめあてをつかむ。

○これまでの消費生活を振り返り、学習への興味をもつ。

T：これまで、買い物で困ったことや問題があった経験はありますか？

S：困った経験・・・、あまりないように思います。

S：どんなことが問題なのか、よく分かりません。

T：例えば、買ったものがすぐ壊れたとか、サイズが合わなかったとか・・・。

S：家族がインターネットで買ったものが、すぐに壊れてしまいました。

S：買った服のサイズが少し合わなくても、我慢して着ています。

S：私も我慢します。交換してもらう方法は知りません。

S：同じものを持っていることを忘れて、2回買ってしまふことがあります。

めあて 自分や家族の消費生活について考え、学習課題を立てよう。

2 日常生活の中から問題を見いだす。

○消費生活に関わるキーワードを示し、確認する。

「商品の購入」

「目的に合った選択」

「消費者トラブル」

「消費者の権利と責任」



○消費生活について、自分が知りたいことやできないことを考える。

S：買った商品が壊れていたら、交換をしてもらえるのですか？

T：いつでも、どんな場合でも交換してくれるのかな？

S：レシートがあれば、いつでも交換してもらえるとします。

S：お年寄りの詐欺被害はニュースで聞くことがあります。

S：クレジットカードとキャッシュカードはどこが違うのか知りたいです。

3 自分たちが見いだした問題を基に、題材を貫く課題を立てる。

○提示された消費生活に関する資料やデータから、様々な視点で問題点について検討する。

S：資料を見ると、中学生も色々な消費者トラブルに遭っていることが分かる。

S：トラブルに巻き込まれた時は、誰に相談すればよいのかな？警察？それを知りたいと思います。

S：トラブルに巻き込まれないために、どうすればよいかを知りたいです。

T：中学生以外の人たちは、どんなことが問題だと思っているのだろう。

S：家族にインタビューしてくればよいと思う。自分が知らないトラブル解決の方法を教えてくれるかもしれない。

○自分たちが目指す、「よりよい消費生活」を具体化し、題材を貫く課題とする。

学習課題：自分ができることを積極的に実践する消費者になろう。

4 本時の振り返りをする。

○題材を貫く課題を確認し、次回は学習計画を立てることを知る。

S：インターネットで買い物ができるから、安全に買い物ができる知識を持ちたいです。

S：トラブルに巻き込まれた時にも対応できるようになりたいです。

S：クレジットカードの仕組みを知りたいです。

S：お金の色々な支払い方法について知りたいです。

本時のめあてにせまるために
自分の消費生活を振り返らせる

○自分や家族の購入経験などを発表
し合う活動を通して、日常で行って
いる消費活動について意識を向け
させ、学習への興味を引き出す。

学ぶ必要感をもたせるために
各自で問題を見いださせる

○出された意見を分かりやすく整
理・分類することができるように、
付箋紙やホワイトボードなどを活
用しながら検討させる。

課題を明確にするために
問題を全体で共有させる

○様々な視点で問題や課題について
検討させることができるように、
提示する資料やデータを工夫す
る。

○できるだけ生徒の意見やつぶやき
から学習課題を立てることができ
るよう、発問を工夫する。

本題材への意欲をもたせる
ために、振り返りをさせる

○本題材を通して、どのようなこと
を学びたいかを主体的に考えさせ、
自分の言葉で表現させる。

指導のポイント

指導例：『私たちの消費生活』（第1学年 第6時）

1 本時のめあてをつかむ。

○「消費者の8つの権利」「消費者の5つの責任」に関わる消費生活を想起させ、学習計画における本時の位置付けを確認する。

T：学習計画を確認しましょう。今日はどんな学習をしますか。

S：「消費者として自分たちができること」についてです。

T：購入した商品に欠陥があった時、商品を交換してもらうことはできるでしょうか？

S：レシートがないと、交換してもらえないと思います。

S：欠陥があれば、どんな場合でも交換してもらえるといます。

めあて 身近な消費生活の場面で、消費者として自分たちができることについて知ろう。

2 実践的・体験的な活動を行う。

○身近な消費生活の場面に基に、消費者として自分たちができることについて検討する。

T：「商品を比較検討して選択する」ことは、権利ですか？責任ですか？

S：選択する権利です。自分で目的に合ったものを選ぶことができます。

T：消費者のもつ「責任」とあるけれど、責任はどんなときに果たすのですか？

S：牛乳パックをリサイクルすることは環境への配慮をする「責任」を果たすことになるといます。



3 一人一人が気付いたことをまとめる。

○一人一人が気付いたことを、自分の言葉で考えさせたり書かせたりする。

S：商品情報をよく調べないで買った経験があります。「知らされる権利」をしっかりと行使していなかったことに気付きました。

4 全体で共有し、まとめる。

○各グループから出された意見を全体で発表し、意見や考えを共有する。

S：今までは消費者の「権利」ばかり考えていましたが、「責任」も大切なことに気付きました。

S：自動販売機で自分が選んだものと違うジュースが出てきたことがあります。そのときは何もませんでした。



T：何もしないと、次に自動販売機を使った人はどうなりますか？

S：また違うジュースが出てくるかもしれません。他のみんなも困ります。

S：もし欠陥商品に気付いても、何も言わないと誰かがけがをするかもしれません。批判をすることが必要なときもあると気付きました。

5 本時の振り返りをする。

○これからの生活で自分や家族が果たすことができる「消費者としてできること」を考え、ワークシートに記入する。

S：あきらめないで意見を言う責任を果たすことは、みんなのためにもなることが分かりました。

S：詰め替え用シャンプーを使うことは、「環境への配慮の責任」にもつながることを、家族にも教えたいと思いました。

S：みんなが優良な商品を選択して購入すると、結果としてよい商品が増えていくと思います。

学習計画を基にめあてを設定させる

○「消費者の権利」や「責任」に関連する場面が日常生活の中にあることに気付かせる。

実感を伴う理解のために実践的・体験的な活動をさせる

○具体的で身近な消費生活の場면을挙げ、「消費者の権利」や「責任」に関わる場面が様々あることに気付かせる。

課題の解決につなげるために必要な知識をまとめさせる

○なぜそのことに気付いたのか、自分の生活のどんな場面からそう考えたのかを問うことで、知識が日常生活で生かせることに気付かせる。

○権利や責任を果たしていない行動が周囲にどんな影響を与えていくか問うことで、消費者の行動の重要性に気付かせ、これまでの自分の行動を振り返って考えさせる。

学びで得た知識を生かすために振り返りをさせる

○自分や家族の生活の中で関連する場면을具体的にイメージさせ、よりよい消費行動のためにこれからどうすればよいかを考えることができるようにする。

指導例：『私たちの消費生活』（第1学年 第7時）

1 本時のめあてをつかむ。

○前時までの学習を振り返り、学習計画における本時の位置付けを確認する。

T：学習計画を確認しましょう。今日はどんな学習をしますか。

S：これまでの学習を生かして購入計画を立てます。

T：これまで学習したことを整理してみましょう。

「商品の適切な購入」「意思決定プロセス」「消費者トラブル」
「消費者の権利と責任」

めあて 学習したことを活用して、家族の目的に合った商品の購入計画を立てよう。

2 課題解決のための購入計画を作成する。

○目的に合った商品を選択する際に必要な情報についてまとめ、商品の購入計画を立てる。

T：これまで学習したノートやワークシートを見直してみましょう。家族が使用する「洗濯機」を購入するとき、どんな情報が欲しいですか？

S：家族の人数が違っていると、選ぶ洗濯機の大きさが変わってきます。

S：予算をどのくらいにするのか決めることも大切です。

S：比較検討するために、どんな機能が必要なのかを調べる必要があります。

3 購入計画について検討する。

○自分で立てた購入計画についてグループごとに検討し合い、計画の修正をする。

S：どうして「店舗販売」で購入したいのか、理由を教えてください。

S：機種によって操作の仕方が違うので、本当に使いやすいかどうかを実際に見て確認したいからです。

S：支払い方法は、「即時払い」にしますか？「後払い」ですか？

S：「クレジットカードを使った後払い」で、購入することにします。

4 購入計画を見直す。

○これまでに学習した知識や技能を活用した購入計画になっているかを確認する。

T：「目的に合った選択」の配慮はありますか？

S：小さい弟がいるので、間違えて洗濯機の中に入ったりしないよう安全面の情報も調べたいです。

S：自分の計画には、安全への配慮がなかった。お年寄りがいる家庭でも、安全に使用できることは大切なポイントになるので、改善します。

T：「無店舗販売」で購入するならば、「ジャドママーク」も確認しましょう。

S：「無店舗販売」は安く購入できるかもしれないけど、やっぱり実際に商品を見て大きさや使いやすさを確認できたほうがよいと思います。

5 本時の振り返りをする。

○次時は、完成した購入計画を用いて、商品購入のシミュレーション学習を行うことを確認する。

S：使う目的や家族構成が変わると、選択する商品も変わってきます。よりよい商品を選ぶために、収集した情報を活用したいです。

S：購入してからトラブルが起きないように、気を付けたいです。

T：「消費者トラブル」が起きてしまっても、トラブルを解決できますか？

S：学習したことを生かせば、解決できると思います。「消費生活センター」の電話番号も知っているの、困ったときは相談できます。

指導のポイント

学習計画を基にめあてを設定させる

○習得した知識及び技能を活用して購入計画を立てることができるよう、消費生活に関わるキーワードを基に既習事項を確認する。

学びを活用させるために、これまでの学習を振り返らせる

○どこで購入をするのか、商品についてどんな情報を知ればよいのかなど、これまでの学習で得た知識や技能を活用して購入計画を立てられるように、これまでの学習で使用したノートやワークシートを見直させる。

よりよい解決方法に向けて購入計画を検討させる

○キーワードを用いて、なぜそのような計画を立てたのかを問うことで、根拠をもって購入計画についての整理・修正をすることができるようにする。

実践への意欲をもたせるために振り返りをさせる

○これまで学習したことを生かしたことで、購入計画の内容がどのように変わったかに気付かせ、身に付けた知識や技能を実生活でも活用したいという意欲につなげる。

指導例：『私たちの消費生活』（第1学年 第9時）

1 本時のめあてをつかむ。

○前時までの実践を振り返り、学習計画における本時の位置付けを確認する。

T：学習計画を確認しましょう。今日はどんな学習をしますか。

S：これまでの学習の振り返りです。

めあて 自分ができていることを積極的に実践する消費者になろう。

T：「自分ができていることを積極的に実践する消費者」とは、どんな消費行動ができる人なのだろう。

2 学習して得られた知識や技能、実践した内容を評価・検討する。

○グループごとに、自分たちができるようになったことや分かったことなどを確認し合う。

T：これまでの学習で使用したワークシートやノートを見直してみましょう。

S：シミュレーション学習では、見た目を重視して商品を選んでいましたが、商品情報を調べて検討したら選ぶ商品が変わりました。

S：インターネット販売など、無店舗販売について知りました。便利だけれど、注意しなければならないこともあることが分かりました。



S：身近にある消費者センターなどの存在を知りました。

3 これからの生活に生かす方法について検討する。

○グループで出された意見を全体で共有し、これからの消費生活で自分たちができることについて意見の追加や修正をする。

T：よりよい消費行動について、これからの生活で実行できることはどんなことだろう。

S：まだクレジットカードを使うことはできないけど、家族には「後払い」について教えてあげたいです。

S：計画的に支払っていくためにも、目的に合った買い物を考えることが大切だと思います。

S：消費者の権利と責任については、目的に合った買い物をするときにも意識することができると感じました。

S：学習した内容は、お互いに関連し合っていることに気がきました。自分の消費行動は社会に影響を与えることもあるので、しっかりと考えて行動したいと思います。

4 題材を貫く課題についての振り返りをする。

○自分たちで立てた「題材を貫く課題」について想起し、課題を解決できたか確認する。

S：自分の消費行動が社会に影響を与えていることが分かりました。

S：購入するとき、様々な情報から比較検討ができるようになりました。

5 本時の振り返りをする。

○これからの消費生活で意識したいことや実践したい行動について考える。

S：値段だけではなく、品質やサイズ、機能など色々な情報をしっかりと調べて、本当に自分にとって必要な商品か考えて購入します。

S：自分や家族が消費者トラブルに遭ってしまったら、身近な相談機関に相談するなど落ち着いて行動します。

指導のポイント

学習計画を基に
めあてを設定する

○毎時間の活動内容を記録した振り返りシートやワークシートなどから、これまでの学習を想起させる。

新たな課題に向かわせるために
評価・意見交換をさせる

○自分が得た知識及び技能について既習の学習内容と結び付けて具体的に考えることができるようにする。

これまでの学習を振り返り
今後の課題について気付かせる

○これからの生活で「自分ができていることを積極的に実践する消費者」の姿を自分なりにイメージするよう促す。

学びや変容を自覚させるために
課題解決ができたか確認させる

○振り返りシートを用いて、身に付いた知識や技能を実感することができるようにする。

今後の生活に生かすために
題材を通した振り返りをさせる

○学習する前と学習した後の自分を比較させ、変容に気付けるようにすることで、学習で身に付けたことをこれからの生活でも活用しようとする意欲につなげる。

家庭科学習指導案

平成30年6月～7月 第1学年 指導者 蓼沼 佐弥香

I 題材名 「私たちの消費生活」

II 学習指導要領上の位置付け

C 消費生活・環境

(1) 金銭の管理と購入

ア 次のような知識及び技能を身に付けること。

(ア) 購入方法や支払い方法の特徴が分かり、計画的な金銭管理の必要性について理解すること。

(イ) 売買契約の仕組み、消費者被害の背景とその対応について理解し、物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理が適切にできること。

イ 物資・サービスの選択に必要な情報を活用して購入について考え、工夫すること。

(2) 消費者の権利と責任

ア 消費者の基本的な権利と責任、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響について理解すること。

イ 身近な消費生活について、自立した消費者としての責任ある消費行動を考え、工夫すること。

III 目標

生活に必要な商品の適切な購入について考える活動を通して、よりよい消費生活を送るための基本的な知識及び技能を身に付けさせるとともに、目的に合った商品の計画的な購入について工夫し、自立した消費生活を送ろうとする実践的な態度を育成する。

IV 指導計画 ※別紙参照

V 本時の展開（1／9）

- ねらい 自分や家族の消費生活を振り返って問題を見だし、題材を貫く課題を立てる活動を通して、これからの学習への意欲をもてるようにする。

2 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
1 本時のめあてをつかむ。（10分）〈全体〉 ○これまでの消費生活で、自分や家族が困った経験や問題があった経験について振り返らせることで、本時の学習への興味をもたせる。 めあて 自分や家族の消費生活について考え、学習課題を立てよう。			
2 日常生活の中から、問題を見いだす。（15分） ○消費生活に関わる活動のキーワード「商品の購入」「目的に合った選択」「消費者トラブル」「消費者の権利と責任」を示し、消費生活の活動サイクルについて確認をする。〈全体〉 ○消費生活について、自分が知らないこと・行っていないこと・分からないことを考えさせ、付箋紙に記入させる。〈個人〉 ○各自の意見を整理・分類させ、今の自分たちが抱えている問題について気付かせる。 〈グループ〉			
3 自分たちが見いだした問題を基に、題材を貫く課題を立てる。（20分） ○消費生活に関する資料やデータを提示し、様々な視点から問題点について気付くことができるようにする。〈個人〉 ○少人数グループごとに互いの「よりよい消費生活」について意見交換させる。〈グループ〉 ○グループ内で共有された「よりよい消費生活」について全体で検討し、自分たちが目指す消費者の姿（題材を貫く課題）を具体化する。〈全体〉 学習課題：自分ができることを積極的に実践する消費者になろう。 よりよい消費生活を送るために必要な知識や技能について、自分や家族の消費生活を振り返って考え、記述をしたり発言をしたりしている。 〈ワークシート・発言（1）〉			
4 本時の振り返りをする。（5分）〈個人〉 ○題材を貫く課題を確認し、次時は学習計画を立てることを伝える。 ☆インターネットで買い物がしてみたいから、安全に買い物ができる知識をもちたいです。 ☆トラブルに巻き込まれたときも対応できるようになりたいです。 ☆クレジットカードの仕組みを知りたいです。			

V 本時の展開（6／9）

- ねらい 身近な消費生活の場面において、消費者として自分ができることを話し合う活動を通して、消費者の権利と責任について理解できるようにする。

2 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
1 本時のめあてをつかむ。（10分）〈全体〉 ○「消費者の8つの権利」「消費者の5つの責任」に関わる消費生活の場面を想起させる。 ○学習計画における本時の位置付けを確認する。 めあて 身近な消費生活の場面で、消費者として自分たちができることについて知ろう。			
2 具体的な事例を基に、消費者として自分たちができることについて検討する。（15分） ○グループごとに異なる具体的事例を提示し、「自分ならどうするか。」を検討させる。その際は、「権利」と「責任」について考えながら話し合いを行うよう伝える。〈グループ〉			
3 一人一人が気付いたことをまとめる。（7分）〈個人〉 ○「権利」と「責任」について気付いたことを、自分の言葉で考えさせたり書かせたりする。			
4 全体で共有し、まとめる。（8分）〈全体〉 ○各グループの事例について出された意見を全体で共有させる。「消費者の8つの権利・5つの責任」のどれと関連するか確認をさせる。 ○消費者が「責任」を果たしていない場面を挙げ、自分や家族が「責任」を果たさないとどんなことが起きるのか考えさせることで、「責任」を果たすことの大切さに気付かせる。 ○「消費者の権利や責任」と関わる場面は日常生活の中にあることを伝える。			
5 本時の振り返りをする。（10分）〈個人〉 ○自分や家族が果たすことができる「消費者としてできること」を考え、これからの自分が実践できることについてワークシートに記入させる。 自分や家族の消費生活が社会に及ぼす影響について気付き、消費者の権利と責任を果たすために自分ができることを理解している。〈ワークシート・発言（4）〉 ☆自分や家族の消費行動は環境に影響を与えることもあった。 ☆消費者として、批判的意識をもって行動することも大切なのだと気付いた。 ☆商品を購入するときは、選択する権利を意識してよりよい商品を選びたい。			

V 本時の展開（7／9）

- ねらい これまでの学習で得た知識及び技能を活用して、購入シミュレーションの実践計画を立てる活動を通して、目的に合った商品を適切に選択することができるように、購入後の注意点やトラブル対応策について考え、工夫できるようにする。

2 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
1 本時のめあてをつかむ。（10分）〈全体〉 ○これまでの学習した内容を振り返らせる。 「商品の適切な購入」「意思決定プロセス」「消費者トラブル」「消費者の権利と責任」 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;">めあて 学んだことを活用して、家族の目的に合った商品の購入計画を立てよう。</div>			
2 課題解決のための購入計画を作成する。（15分）〈個人〉 ○「家族構成」「使用目的」「予算」「支払い方法」など、目的に合った商品を選択する際に必要な情報についてまとめさせ、これまでの学習で得た知識や技能を活用した実践計画を立てさせる。			
3 購入計画について検討する。（10分）〈グループ〉 ○自分で立てた購入計画についてグループで検討し合い、どこで購入するのか、商品についてどんな情報を知ればよいのかなどを互いに確認しながら計画の修正をさせる。			
4 購入計画を見直す。（10分）〈個人〉 ○これまで学習した知識や技能を活用した購入計画になっているかどうか、購入の目的に合っているかどうかを確認させる。 <div style="border: 1px dashed black; padding: 5px; margin-top: 10px;">これまでの学習で得た知識及び技能を活用し、目的に合った商品購入の計画を立てている。 〈ワークシート・発言（2）〉</div>			
5 本時の振り返りをする。（5分）〈個人〉 ○完成した購入計画を用いて、次時は商品購入のシミュレーション学習を行うことを確認する。 ☆使う目的や家族構成が変わると、選択する商品も変わってくるのだな。 ☆よりよい選択をするために、収集した情報をきちんと活用することが大切だ。			

V 本時の展開（9／9）

- 1 ねらい 学習で身に付けた知識及び技能を生活に生かす方法を検討する活動を通して、これからの消費生活について新たな課題を見付け、実践につなげることができるようにする。

2 展開

学習活動（分）	○：留意点	点線囲：評価	☆：振り返りの子供の意識
<p>1 本時のめあてをつかむ。（5分）〈全体〉</p> <p>○これまでの学習を振り返り、これから自分たちがどのような消費生活を送っていきたいかについて話し合うことを伝える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>めあて 自分ができることを積極的に実践する消費者になろう。</p> </div>			
<p>2 学習で身に付けた知識や実践した内容を振り返る。（15分）〈グループ〉</p> <p>○グループごとにテーマを与え、自分たちができるようになったことや分かったことなどを確認し合う。「商品の適切な購入」「目的に合った商品の選択」「消費者トラブル」「消費者の権利と責任」</p>			
<p>3 知識や技能をこれからの生活に生かす方法を検討する。（10分）〈全体〉</p> <p>○グループで出された意見を全体で共有させ意見の追加・修正を行い、これからの消費生活で自分や家族にできることを検討させる。</p>			
<p>4 題材を貫く課題について、まとめる。（15分）〈グループ〉</p> <p>○「つかむ」学習で使用したワークシートを用い、自分たちで立てた題材を貫く課題について想起させ、課題を解決できたか確認させる。</p> <div style="border: 1px dashed black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>これまでの学習活動を振り返り、よりよい消費生活を送ることができるような消費行動を具体的に考えて記述したり、発言したりしている。 <ワークシート・発言（1）></p> </div> <p>☆購入や消費について、便利な点や問題点について知ることができた。</p> <p>☆自分の消費行動も社会に影響を与えることが分かった。</p> <p>☆家族が消費者トラブルに巻き込まれたときは、相談窓口があることを教えることができる。</p>			
<p>5 振り返りをする。（5分）</p> <p>○これからの消費生活で、自分が意識したいことや実践したい行動について考えさせる。</p> <p>☆商品を購入するときは、目的や予算を考えてしっかり検討して購入したい。</p> <p>☆自分や家族がどんな商品にどれだけ支払っているかを調べ、無駄遣いを減らしたい。</p>			

指導計画 技術・家庭科（家庭分野） 第1学年 題材名「私たちの消費生活」（全9時間計画）

目標	生活に必要な商品の適切な購入について考える活動を通して、よりよい消費生活を送るための基本的な知識及び技能を身に付けさせるとともに、目的に合った商品の計画的な購入について工夫し、自立した消費生活を送ろうとする実践的な態度を育成する。		
評価規準	(1) 自分や家族の消費生活に関心をもち、学習活動に意欲的に取り組んでいる。 (2) 自分や家族がよりよい消費生活を送る方法について考え、工夫している。 (3) 自分や家族の消費生活について、必要な情報を収集・整理している。 (4) 自分や家族がよりよい消費生活を送るための基本的な知識を習得している。		
過程	時間	○ねらい めあて	☆振り返り（意識） ◇評価項目 〈方法（観点）〉
つかむ	1	○自分や家族の消費生活を振り返って問題を見だし、題材を貫く課題を立てる活動を通して、これからの学習への意欲をもてるようにする。 自分や家族の消費生活について考え、学習課題を立てよう。	☆無計画な購入や目的に合わない商品の選択など、自分たちの消費行動には問題点があることが分かった。 ◇よりよい消費生活を送るために必要な知識や技能について、自分や家族の生活を振り返って考え、記述をしたり発言をしたりしている。 〈ワークシート・発言（1）〉
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; display: inline-block;"> 自分ができることを積極的に実践する消費者になろう。 </div>			
	1	○学習課題を基に、学習計画を立てる活動を通して、これからの学習への興味をもてるようにする。 学習課題を基に、学習計画を立てよう。	☆自分たちで考えた学習計画を基に、よりよい消費者になるための学習をしていこう。 ◇よりよい消費生活を目指して、学習計画を立てることができる。 〈ワークシート・発言（1）〉
追究する	1	○身近にある商品の販売方法について話し合い、まとめる活動を通して、「様々な販売方法や支払い方法」と「それぞれの利点や欠点」について理解できるようにする。 商品の適切な購入について、知らなければならぬこと、気を付けることは何だろう。	☆商品の販売方法・支払い方法はいろいろとあることが分かった。特徴をよく理解して購入や支払いをすることが大切だな。 ☆クレジットカードは便利だけれど、計画的に使用しなければならない。 ◇「販売方法と支払い方法」について理解し、自分や家族の消費生活の改善につながるような対応策を記述したり、発言したりしている。 〈ワークシート・発言（4）〉
	1	○意思決定プロセスに基づいた商品購入のシミュレーション学習を行い、情報収集や選択基準について話し合う活動を通して、目的に合った商品を適切に選択できるようにする。 自分の目的に合った商品を選択しよう。	☆自分にとって必要な情報を集め、整理して商品を選択することができた。 ☆今度買い物をする時は、意思決定プロセスを意識して商品を選んでみよう。 ◇商品の購入及び活用について必要な情報を収集・整理して、自分の目的に合った商品を適切に選択している。 〈ワークシート・観察（2）〉
	1	○消費者トラブルについて、販売者、消費者それぞれの立場から問題点を話し合う活動を通して、トラブルを解決するための消費者としての対応方法等について理解できるようにする。 消費者トラブルを、どうやって解決すればよいのだろう。	☆本当に必要かよく考えて、内容を理解してから契約しなければならない。 ☆トラブルが起きたときに、相談する機関があることを知った。 ◇消費生活のトラブルを解決する方法について、自分や家族の消費生活の改善につながるような対応策を記述したり、発言したりしている。 〈ワークシート・発言（4）〉
	1	○身近な消費生活の場面において、消費者として自分ができることを話し合う活動を通して、消費者の権利と責任について理解できるようにする。 身近な消費生活の場面で、消費者として自分たちができることについて知ろう。	☆自分や家族の消費行動は環境に影響を与えることもあることが分かった。 ☆消費者として、批判的意識をもって行動することも大切なのだ気付いた。 ◇自分や家族の消費生活が社会に及ぼす影響について気付き、消費者の権利と責任を果たすために自分ができることを理解している。 〈ワークシート・発言（4）〉
	2	○これまでの学習で得た知識及び技能を活用して、購入シミュレーション学習を行うことを通して、目的に合った商品を適切に選択することができるように、購入後の注意点やトラブル対応策について考え、工夫できるようにする。 学んだことを活用して、家族の目的に合った商品の購入計画を立てよう。	☆使う目的や家族構成が変わると、選択する商品も変わるのだな。 ☆予想されるトラブルが起きたときの解決方法が考えられた。家族にも知ってほしいから教えてあげよう。 ◇これまでの学習で得た知識及び技能を活用し、目的に合った商品を選択して、商品購入の際に起こりうるトラブルの対応策を工夫している。 〈ワークシート・観察・発言（2）（3）〉
まとめる	1	○学習で身に付けた知識及び技能を生活に生かす方法を検討する活動を通して、これからの消費生活について新たな課題を見付け、実践につなげることができるようにする。 自分ができることを積極的に実践する消費者になろう。	☆この学習を通して、消費生活で自分ができる行動が分かった。消費者の権利や責任を意識して買い物をしたい。 ☆目的や予算を考えて商品を購入できるように心掛けたい。 ◇これまでの学習活動を振り返り、よりよい消費生活を送ることができるような消費行動を具体的に考えて記述したり、発言したりしている。 〈ワークシート・発言（1）〉